

一望できる絶景温泉 海と夕日が

湯の児 海と夕日が



施設 DATA	
TEL.	0966-62-6262
●住所／	水俣市大迫1213
●営業時間／	(立ち寄り湯) 14:00~18:00※宿泊状況により休止する場合あり。要事前確認。
●定休日／不定休(施設メンテナンスにより臨時休館する場合あり)	
●客室数／	52室(洋室18、和室33、和洋室1)
●料金／	(1泊2食付き) 17,750円~(立ち寄り湯) 大人500円、子ども(小学生以上)300円
●風呂／	内湯男女各1、露天男女各1、サウナ男女各1、水風呂男女各1
●駐車場／	40台
●アメニティ／	シャンプー、リンス、ボディソープ、ドライヤー、フェイスタオル(有料)、バスタオル(有料)

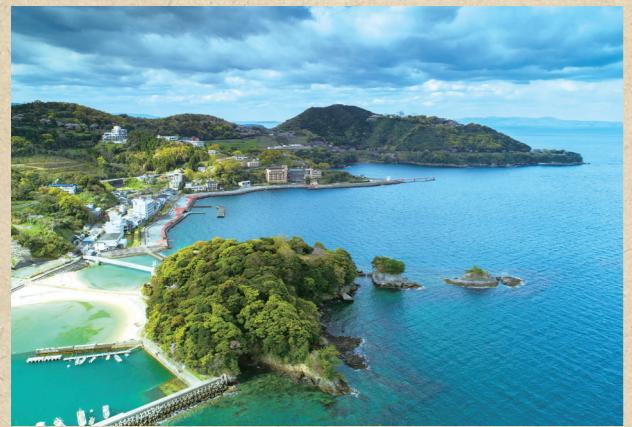


湯の児温泉

Yunoko onsen

水俣市の中心地から車で8分ほど。湯の児温泉は、遠く熊襲討伐軍を肥後路に進めた景行天皇が、船上から海に手を入れ、湯の温度がぬるかったことから、「湯の子ども(湯の児)」と命名したといわれています。それから時は経ち、徳川幕府の末期から湯の児を舞台に多くの温泉発掘が試みられてきました。

1925年(大正14年)に待望のお湯が噴出し、地元の住民は湧出した温泉を現在の「湯の児 海と夕やけ」の駐車場付近に引いて、舟湯をはじめました。



温泉街として近代的な発展を続けた湯の児温泉は、1945年(昭和20年)終戦とともに熊本に進駐した連合軍が、熊本県の行楽地として「阿蘇山」、「水前寺公園」、「海の湯の児温泉」、「山の人吉温泉」を熊本の四大観光地として親しみを持ち、湯の児温泉には多くの将兵が頻繁に訪れていたといいます。

1960年(昭和35年)に現在の観月橋に架け替えられ、1984年(昭和59年)にはフィッシングバーク、その後には現在でも多くの観光客に親しまれている湯の児海水浴場が建設され、昭和50年代には温泉旅館は13軒を数えていました。



【湯の児温泉の泉質の特徴】

解説:温泉家 北出恭子氏

湯の児温泉の泉質は、古い角質や皮脂などをやさしくクレンジングし、さらに温泉成分が肌をコーティングすることで保湿効果があるWで嬉しい“2in1温泉”。

主に含まれる“重曹”的成分が脂や汚れを落として肌のお掃除をしてくれます。また、配合されている“塩分”が、皮膚の上に付着して膜をつくるため、水分を閉じ込めて外に蒸散することを防いでくれるので、保湿効果も高いのが特徴です。

皮膜によって体内の熱も封じ込めるため、湯上がりにボカボカ感がつく“保温の湯”。さらに、炭酸成分も少なからず含まれているので血行促進作用もあり、体の芯からよく温まります。

●泉質詳細

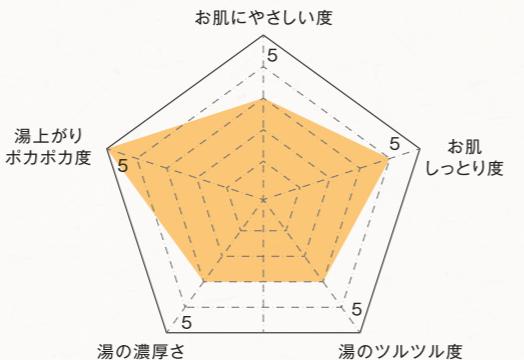
泉質	ナトリウム-炭酸水素塩・塩化物泉、ナトリウム-塩化物泉
pH	6.0~7.8 ※中性~弱アルカリ性
泉温	43.3~52.2°C
成分総計	2,054~5,290mg/kg
湧出量	平均147ℓ/min(動力揚湯)
泉質別適応症(浴用)	きりきず、末梢循環障害、冷え性、皮膚乾燥症、うつ状態

*成分総計は、温泉の成分濃度を表しています。数字が大きいと成分量が多いということになります。

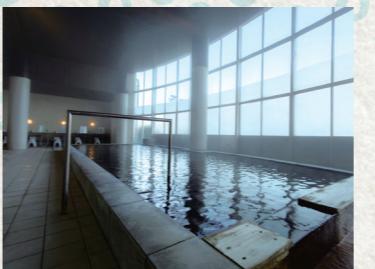


●泉質の特長

クレンジング&保湿効果がWで嬉しい“2in1温泉”
湯上がりにボカボカと保湿効果のある温まりの湯



露天風呂からは不知火海を独り占めできます



広々とした大浴場



男女ともにサウナがあります



自慢の地産地消のビュッフェ

- 泉質／ナトリウム-炭酸水素塩・塩化物泉(低張性-弱アルカリ性-高温泉)
- 泉温／源泉①50.8°C 源泉②50.6°C
- pH／7.8
- 成分総計／2,109mg/kg
- 湧出量／源泉①157ℓ/min・源泉②152ℓ/min(動力揚湯)
- 利用状況／自家源泉・源泉かけ流し(夏場のみ加水)



ココがポイント!
北出レビュー

敷地内から湧出する2本の源泉をブレンドした源泉かけ流し。思いきり手足をのばして入れる広い大浴場、フィンランドサウナと水風呂、階段を上った先にはオーシャンビューの絶景インフィニティ露天風呂が。心地よい潮風を全身に感じながら夕陽や満点の星空など変わりゆく空を眺められる最高の時間を過ごせます。



大浴場の湯口